

なぜ、「サムライ・平和」か

山波言太郎

「サムライ」は、武士、武器を持って戦う人、戦人いくさびと。それが、なぜ「平和」か？
それが判らなかつたこれまでの人間の歴史、それは戦争の歴史だつた。
アメリカに日本が負けた一九四五年八月十五日から、黄金の平和が仕
組まれている。

日本人の目覚め、物資の取り合い〈経済発展を幸福とする価値観〉は、
ケモノ時代のもの。ひもじくても品格を守り、相み互いを助け合うのが
武士のなさけ。"そこまで敗戦から行ければよかつたのに、ケモノまでで
未だストップ状態。3・11東日本大震災でチョッとだけそこが見えた。
家を失い、財を失い、身内を失つた人も、整然と列を作り配給物資を受
けた。あれは礼、礼は人をかえりみる愛、これが武士のなさけ日之本の
国の証。もはやケモノに非ず人なり。

だからあの日から、日本人総目覚めが期待される。世界へ発信する武
士のなさけ、ケモノからヒトになりましょう、人になつて相乗効果でモ
ノづくりに励み、天然を壊さず生かす科学が進み、おのずと皆の豊穡ホウシヨウと
和菓と、戦忘れの時代がつづく。この永遠の登り梯子を上げよう。"これ
決死けっしの業わざなり、決死の愛を致す者をサムライと申す。